

事後評価報告書

1. 基本情報

実行団体名	一般社団法人 国際交流団体 ブロック
実行団体事業名	青少年育成グローバル事業
資金分配団体名	一般社団法人北海道総合研究調査会
資金分配団体事業名	北海道未来社会システム創造事業
事業の種類	草の根活動支援事業
実施期間	2020年4月～2023年3月
事業対象地域	亀田文七飯町、北斗市、函館市

2. 事業概要

(1) 事業によって解決を目指す社会課題

共働きや一人親世帯の学童へ通う子供たちは、習い事へ通えない場合が多い。また発達障害があると認められた子供たちは、放課後デイサービスへ通い、通常の習い事へ通うことは不可能な状況にある。こういった子供たちは、通常の子供たちよりも学習機会が少なく、格差が生じている。平等な学習機会を提供することで、この格差を少しでも是正することを目指す。

【想定した直接的対象グループ】

- ・学童や放課後デイサービスに通う小学生
- ・道南地区在住の外国人

(2) 事業の概要

①中長期アウトカム

道南地域において、学童・放課後デイサービスに通う児童が英語に触れる機会が当たり前にある環境を提供する。また地域住民と外国人在住者、技能実習生らが互いを受け入れ、共存できる社会になる。

②短期アウトカム

- ・学童や放課後デイサービスに通う児童のコミュニケーション能力が向上する
- ・学童や放課後デイサービスに通う児童の異文化に対する興味や知識が変化する
- ・学童や放課後デイサービスで、英語を学習する児童や施設の数が増える

③実施した活動

- ・学童施設「一般社団法人かやぶきの家まねきや」「にっこにこクラブ」において、週1回の英語プログラムの実施
- ・学童施設「学童保育所ランプ」において、夏・冬休み期間の、英語プログラムの実施
- ・放課後デイサービス「あおぞら」「デイサービス北陽」において、週1回の英語プログラムの実施

英語プログラムの内容

当日学ぶ内容を学習した後、ゲームで楽しく習得していく。

<ゲームの例>

「トレジャーハント」 カードの裏に書かれた物を探す

「歯みがきアルファベット」 イラストの歯に書かれたアルファベットを歯ブラシで消していく。

「ハエたたき」 アルファベットの文字が書かれたカードを探して、ハエたたきでたたく。

- ・放課後デイサービス「デイサービス北陽」の子供たちによる英語発表会の実施
 - ① 英語の絵本の朗読 「はらぺこあおむし」の英語文を暗記して、父兄や先生の前で発表した。
 - ② 英語劇 「桃太郎」のセリフを英語で覚え、父兄や先生の前で演じた。
- ・異文化に触れるイベントの開催（ハロウィン・クリスマス）
 - ハロウィン パンプキンランタン作り、ゾンビゲーム、ミッションゲーム（外国人に出身地を英語で聞くミッションなど）
 - クリスマス
 - 絵本の読み聞かせ
 - クイズ（トナカイは何頭？ 赤鼻のトナカイの名前は？…など）

④出口戦略

学童・放課後デイサービスへの英語プログラム提供やイベント開催を通して、収益性・発展性が見込めるのは、どの活動なのかを総合的に判断し、今後の活動の力点の置き方につなげていく。

3. 事後評価実施概要

(1) 実施概要

①この事業の重要なポイントとして設定した変化

道南地域において、学童・放課後デイサービスに通う児童へ、英語に触れる機会を提供する。地域住民と外国人在住者が互いを受け入れ共存できる社会をめざし、きっかけ作りを提供する。

②事後評価のための実施した調査

調査Ⅰ	【関連する短期アウトカム】 学童や放課後デイサービスに通う児童のコミュニケーション能力が向上する
1) 調査及び分析方法	当初フォーカスグループミーティングを予定していたが、コロナ感染者拡大のため、口頭でのインタビューやアンケートに切り替えた。
2) 実施時期	2022年11月
3) 対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー 施設のスタッフ 13名、英語プログラムへ参加児童の保護者 10名、担当講師 2名 ・アンケート 施設スタッフ 4名／保護者 9名
4) 結果（明らかになったこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・実施個所のスタッフへのアンケートより、児童の「積極性が向上した」「挨拶を自らするようになった」などの声をいただいた。 ・イベントなどで、外国人へ話しかける姿が見られた。 ・外部で担当講師に会った時など、挨拶をしてくれる。 （アンケート項目は別添資料）

調査Ⅱ	【関連する短期アウトカム】 学童や放課後デイサービスに通う児童の異文化に対する興味や知識が変化する
1) 調査及び分析方法	アンケートやインタビューによるプログラムへの評価と子供たちの変化をヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー 施設スタッフ 13名、担当講師 2名 ・アンケート 施設スタッフ 4名／保護者 9名
2) 実施時期	2022年11月
3) 対象者	施設スタッフやプログラム参加児童の保護者、担当講師
4) 結果（明らかになったこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントをお手伝いいただいた外国人在住者や外国人労働者から、自国の紹介（ケニア、ベナン共和国など）をしてもらい、子供たちの好奇心を刺激できた。 ・保護者からのアンケートでは、家庭で英語を口にすることがあったという声もあり、英語が身につけていることが伺える。 ・ハロウィンのイベントでは、コロナ禍にも拘わらず、270名近い親子の参加者がいて、興味や期待の大きさがわかる。 （アンケート項目は別添資料）

調査Ⅲ	<p>【関連する短期アウトカム】 道南地域において、学童や放課後デイサービスで英語を学習する児童や施設の数が増える</p>
1) 調査及び分析方法	同様なプログラムを始めた、または、興味を示してきた団体や施設数を記録する
2) 実施時期	スタート時期から2022年11月
3) 対象者	問い合わせの団体や施設
4) 結果（明らかになったこと）	<p>英語プログラムを自施設で実施する「英語デリバリー教室」に興味を示してきた団体は2カ所あった。民間の学童運営会社は、条件面で折り合わなかった。近隣の学童施設は来年春より実施予定。目標としている最終年度での実施数（デイサービス3カ所、学童3カ所）については、学童は達成見込みだが、デイサービスは2カ所で目標未達。</p> <p>月1回開催のイベントに参加した児童は、2022年1～11月まで、延べ人数154名（昨年比+21名）で、2～4回参加の児童が16名いた。</p>

③調査結果の考察（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたか）

<ul style="list-style-type: none"> ・短期アウトカム3項目のうち、英語プログラム提供先の学童やデイサービスの数が未達ではあるが、2項目はアンケート調査や子供たちの英語に対する興味の醸成が図れたことから、目指す状態になりつつあると感じる。 プログラム提供先を増やすため、英語プログラム実施によるメリットなどの告知活動を強化していきたい。 ・保護者からのアンケートの中で、市販教材を購入している家庭や、英語を習わせたいと考えてる親もいて、保護者の英語教育に対する意識が予想より高いことが分かった。 ・蔓延防止緊急措置の解除後は、イベントをお手伝いいただける外国人の参加によって、中長期アウトカムに掲げた地元住民と外国人在住者の交流が図れた。 今後の継続参加も同意がいただけ、プログラムの充実を図っていきたい。
--

(2) 実施体制

内部/ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	プログラム内容	佐竹直子 山内辰也	国際交流団体ブロック
内部	児童の変化	佐竹直子 山内辰也	国際交流団体ブロック
外部	児童の変化	スタッフ・保護者	施設
外部	今後の希望	スタッフ	施設

4. 事業の実績

(1) インプット (主要なものを記載)

①人材 *主に活動したメンバーの数 (4) 人	氏名	主な役割	
	佐竹 直子	プログラム実施・営業・広報担当	
	山内 辰也	プログラムの実施・営業担当	
	佐藤 仁子	プログラム実施補助・会計・資金関連担当	
	嶋田 典子	プログラム実施補助・報告書関連担当	
②主な資機材	資機材名	用途	
	iPad	コロナ禍でのオンラインレッスン実施に使用	
	ノート型パソコン	レッスンでの動画視聴や資料作成に使用	
	プロジェクター	イベントで動画やPDFの投影に使用	
③経費実績(概算)	契約当初	実績	差額
事業費の総額	5,357千円	5,354千円	3千円
休眠預金からの助成額	4,000千円	4,000千円	0千円
自己資金	1,357千円	1,357千円	0千円
④本事業に投入した自己資金の種類と金額	名称	金額	
	放課後デイサービス英会話授業料一部負担金	270千円	
	放課後学童保育英会話授業料一部負担金	240千円	
	ブロック(イベント収入・寄付金)	82千円	
	ブロック(法人本体)	765千円	
	合計	1,357千円	
	*金額が③経費実績の自己資金と一致		
⑤自己資金の資金調達で工夫した点	放課後デイサービス・学童保育の事業者に、英会話講師派遣費用の一部を負担していただき、自己資金の一部に充てたこと。		

(2) アウトプットの実績

アウトプット1	道南地域において、学童や放課後デイサービスに通う児童の英語に対する意識を高める。
1) 指標	①保護者アンケート ②英語能力の向上
2) 初期値/初期状態	①英語に苦手意識がある ②英語の知識が不足している
3) 目標値/目標状態	英語の知識が増え、英語が好きになり、生活の中で英語が出てくる
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) 実績値	<ul style="list-style-type: none">・街中で講師に会うと英語で挨拶してくれるようになった・英語に興味を持ち、英検を目指す児童、英語教室に通う児童がでてきた。・英語での発表会（英語劇・英語の朗読）を開催できるようになった。

アウトプット2	道南地域において、学童や放課後デイサービスに通う児童の異文化に触れる機会を増やす。
1) 指標	英語プログラム内での異文化についての学習
2) 初期値/初期状態	異文化に対する知識が不足している
3) 目標値/目標状態	異文化に対する知識を取得できる
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) 実績値	<ul style="list-style-type: none">・ハロウィンやクリスマスイベントを通じて、海外の文化を学ぶ機会ができた（ハロウィンの由来・トナカイの頭数や名前など）

アウトプット3	道南地域の外国人(在住者、技能実習生、ビジター)とのふれあいの機会を創出する
1) 指標	異文化に触れるイベントの開催
2) 初期値/初期状態	異文化に触れる機会が乏しい
3) 目標値/目標状態	外国人と簡単なコミュニケーションが取れる
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) 実績値	<ul style="list-style-type: none">・外国人在住者から、自国の食べ物・民族衣装などを紹介してもらい、知らない国(ケニア・ベナン共和国・アフガニスタンなど)について学ぶことができた。・イベントの中で、ボランティアの保護者と外国人在住者とのふれあいの場を創出できた。・お手伝いをいただける外国人が、技能研修生から、七飯町内在住者・外国人留学生・海外からの移住者などへと少しずつ輪が広がりつつある。

アウトプット4	道南地域において、学童で英語を学習する児童数の拡大を図る
1) 指標	学童での参加人数
2) 初期値/初期状態	学童での実施は0カ所（無し）
3) 目標値/目標状態	参加人数 20名 参加人数 60名 参加人数 60名
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2020年度・2021年度・2022年度
5) 実績値	2020年度 50人 2021年度 50人 2022年度 148人（参加延べ人数） <資料 1>

アウトプット5	道南地域において、放課後デイサービスで英語を学習する児童数の拡大を図る
1) 指標	放課後デイサービスでの参加人数
2) 初期値/初期状態	デイサービスでの実施は1カ所（10人）
3) 目標値/目標状態	参加人数 10名 参加人数 25名 参加人数 40名
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2020年度・2021年度・2022年度
5) 実績値	2020年度 30人 2021年度 23人 2022年度 24人

3) 外部との連携の実績

<ul style="list-style-type: none"> ・休眠預金採択団体の株式会社ヒトココチと連携して「学童クラブひのてん」の児童と英語で遊ぶ屋外・屋内イベントを企画・実施。（英語の歌・映像での英単語学習・トレジャーハンティング・プレゼンテーション） ・北斗市「イングリッシュキャンプ」で、英語プログラムの実施を依頼された。 ・町内の公共施設主催の「異文化交流イベント」の内容を一部依頼され、英語プログラムと異文化紹介（アフリカの太鼓のワークショップなど）を実施。参加者 約30人

5. アウトカムの分析

(1) アウトカムの達成度

①短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 1	道南地域において、学童や放課後デイサービスに通う児童のコミュニケーション能力が向上する
1) 指標	集団内での生活態度の変化 ① 積極性の向上 ②挨拶の仕方の向上
2) 初期値/初期状態	集団内での生活態度 ① プログラムに集中できない ②人とのコミュニケーションが苦手
3) 目標値/目標状態	英語プログラムを通じて、友達や周囲の大人とのコミュニケーションがとれるようになる
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) アウトカム発現状況(実績)	・発達障害の子供たちは、英語に触れる機会が初めての中、興味を持ち集中して取り組めたため、英語での発表会の実施に至った。 ・児童の積極性が向上した。一回数を重ねるごとに、自分たちから挨拶をしたり、話しかけたりするようになった。
6) 事前評価時の短期アウトカム	*変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください

短期アウトカム 2	道南地域において、学童や放課後デイサービスに通う児童の異文化に対する興味や知識が変化する
1) 指標	興味・関心の広がり ①イベントへの参加姿勢
2) 初期値/初期状態	①異文化に対する知識がない ②異文化に対する興味がない
3) 目標値/目標状態	他国についての知識をつける機会の提供をし、グローバルな環境でも対応できる人材への一歩とする。
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) アウトカム発現状況(実績)	今まで会ったことのない人種(白人・有色人種)との交流を通じて、多民族・多文化の理解につながるきっかけづくりができた。 ・外国人在住者の出身国の紹介で、国旗や、外国の文化(食べ物、民族衣装など)を学ぶことができた。(ケニア、ベニン共和国、マラウイ共和国、アフガニスタン、アメリカ) ・日本人からではなく、外国人からの直接説明を受けることで、児童たちは、興味を持って説明を聞くことができた。 <資料2-1/2-2>
6) 事前評価時の短期アウトカム	*変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください

短期アウトカム3	道南地域において、学童や放課後デイサービスで英語を学習する児童や施設の数が増える
1) 指標	①デイサービスでの実施数・参加人数 ②学童での実施数・参加人数
2) 初期値/初期状態	①デイサービスでの実施-1カ所 (10人) ②学童での実施-0カ所
3) 目標値/目標状態	①デイサービスでの実施-3カ所 (40人) ②学童での実施-3カ所 (60人)
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	2022年度中
5) アウトカム発現状況 (実績)	① デイサービスでの実施- 2カ所 24人 ② 学童での実施-3カ所 定期的に実施 2カ所 51人 イベントとして不定期に実施 1カ所 97人 (延べ人数) <資料 3> お試しでの不定期イベントだったが、児童の「次いつやるの?」「またやりたい」などの声もあり、新年度4月からは、定期的な実施が決定。
6) 事前評価時の短期アウトカム	*変更した場合は元の短期アウトカムを記載してください

②アウトカム達成度についての評価

・英語プログラムを実施する学童・放課後デイサービスの数は目標未達ではあるが、私たちの活動を知った、市や公共施設からの単発プログラムの依頼があったことは、今後につながっていくと感じた。

・英語プログラムやイベントの実施で、在住外国人や異文化に触れる機会を多くの児童や地域住民に提供できた。また、昨年秋から、プログラムをお手伝いいただける外国人が増えてきたことは、活動の継続につながっていくと思う。

・放課後デイサービスの英語発表会には、児童が通う学校の先生も観覧に来てくださり、児童が人前で発表できる姿に驚かれていた。また、発表した後は本人の自信にもつながり、英語が一層上達した。発達障害を持つ児童の一人が英検受験を目指すようになった。

(2) 波及効果 (想定外、波及的・副次的効果)

- ・家庭での英語教育に対する親の変化は意外とない。(現状維持)
学童へ出張に行く回数については、学校が休みの時期(夏休み、冬休み、春休み)を利用した方が良かった。学童よりも、放課後デイサービスの方が「出張英会話」の需要を感じた。
- ・後援をいただいた市の教育委員会から職員がイベントの視察に来場し、北斗市主催の子供を対象としたイベントで、英語プログラムの実施を委託された。
- ・ブロックの活動を知った、外国人在住者から、合気道のイベントの申し込みがあった。本人が合気道の講師で、英語を交えて子供たちへ合気道を教えてくれた。

(3) 事業の効率性

- ・コロナ禍の中で、タブレットを使用しての英語プログラムを提供することは、子供たちとの接触を防げるほか、紙やインクの使用量を軽減できる。
- ・オンラインレッスンを行うことは、交通費や移動時間の節約につながる一方で、子供とのコミュニケーションにおいて、訪問するより一人ひとりの子供たちへの目配りができないことなど、マイナス面もある。

6. 成功要因・課題

達成

- ・異文化交流のイベントに在住外国人を派遣し交流の場を作ることができた。
- 事業の内容(学童での出張英会話の内容)を公共の場で周知してもらう機会があり、社会課題を再認識し、解決に向けて話合えた。
- ・普段、英語に接する機会の少ない学童や放課後デイサービスに通う子どもたちに、英語に触れる機会を継続的に提供する仕組みをつくることができた。

未達成

- ・英語プログラムの提供先の施設数は目標には達しなかった。講師派遣での英語プログラムの実施は現状の金額設定では先方の予算には合わない。金額の見直しが課題。
- ・七飯町内の直営学童は、「全部の学童に平等にならない」、「1つの学童の生徒数が多いので、一度にできない」などの理由により、英語プログラムの導入は難しい。また、町の子供支援課も「出張学童英会話」について、積極的ではない。他での導入事例(成功例)を作り、紹介していくことで関心を持ってもらうことが課題。
- ・コロナ蔓延期間中は、海外からの技能実習生との交流ができなかった。

7. その他深掘り検証項目 (任意)

特にありません。

8. 結論

(1) 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
①事業実施プロセス				○	
②事業成果の達成度			○		

(2) 事業実施の妥当性

事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度については想定した水準まで持つていくのは困難を要した。総合的に見たときに、学童での出張英会話は、放課後デイサービスの出張よりも、さほどニーズを感じない為、今後、導入事例の紹介を通じて、異文化交流の必要性を学童運営側へ啓もう活動していくことが課題。

一方、放課後デイサービスへの出張英会話は課題やニーズに対して事業の適切性が見られ、施設の方からも成果の報告が積極的にある。達成状況を振り返り、放課後デイサービスへ営業することが事業拡大につながると思われる。

9. 提言

・英語を習いに「来てもらう」ことから、こちらから「出張」することで、英語教育に関心が高くない家庭の子どもにも英会話の楽しさ・異文化体験を届けられることは、今後の社会構造の中で、英語の格差が広がらないことの一つの方法になっていく。

・「オープンAI」の出現で、言語はAIに頼る時代になりつつあり、英語は必要ないと思われがちだが、AIが作成したものを見極める正しい言語操作能力が求められるようになり、小さいころからの言語習得は意義のあることと考える。

・地域の外国人が「仕事」以外で地域住民・子どもと触れ合う機会を作っていることは、彼らにとっても日本を理解する場を提供していると思う。また、今後、外国人労働者が、増えることが予想される中、地域住民にとっても、異文化を理解する予行演習的な場にもつながると思う。

10. 知見・教訓

子供たちが、楽しく英語に触れること（ゲームやお買い物ごっこ・外国人と一緒に遊んだり、質問したりする など）や目標をもって英語を学ぶこと（絵本を英語で朗読/日本の昔話を英語劇で発表）で、英語をどんどん吸収し、想定以上のことができるようになった。

子供たちが楽しめるように、英語でゲームをしたり、カードを使ったり、動画を見ながら一緒に歌ったり、踊ったりすることで飽きさせない工夫をしたことも、活動の継続につながったと思う。

子供たちのこういった経験や達成感から、発達障害とされた児童も、学童に通う小学生たちも、可能は未知数で、私たち大人が子供の能力を限定してはいけない事を学ぶことができた。

11. 資料（別添）

*添付したものにチェックを付けてください。

	事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
	事後評価報告時の事業計画やロジックモデル
✓	事業の様子がわかる写真資料
	広報活動の成果品、報道された記事
✓	アンケート調査結果や実際に使用した調査票
	とりまとめられた白書
	論文、学会発表資料
	その他（)
	その他（)